

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13395

研究課題名(和文)『類雑集』から見る近世唱導の生成と展開

研究課題名(英文)Generation and Development of Early Modern preaching Considered from "Ruizoshu"

研究代表者

北林 茉莉代(KITABAYSHI, Mariyo)

大正大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：00796063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、近世に刊行された唱導資料『類雑集』が、どのような作者圏で「生成」され、どのような読者に受容されたのかという「展開」を明らかにすることである。

これまで、本文や引用文献の分析から「日蓮宗総本山身延山久遠寺周辺で作られた可能性」を指摘した。また、書き入れの内容から「日蓮宗の信徒や近しい思想を持つ読者」が受容していたと推測した。これらのことから、『類雑集』が刊行された背景には「特定の宗教教団が存在し、教化の意図を以て生成・再生成を行った」と結論づけた。このことは、近世において出版活動や布教活動が唱導資料の「生成」に深く関わり、作品は制作意図どおりに「展開」されたことを意味している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近世における唱導資料の「生成」や「展開」の様態について、『類雑集』という作品から検討しようという試みであった。上記の成果を報告するために、『類雑集』本文や引用文献の諸本系統などを比較し、実証的に検証したことが本研究の学術的意義である。また、学界への報告により「近世唱導研究」に貢献できたなら、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)："Ruizoshu" is a Buddhist book that was established in the early modern period. I would like to explore how preaching materials were created and received during this period, using "Ruizoshu" as a specific case study.

As a result, it was pointed out that there is a possibility that "Ruizoshu" was created in the vicinity of the Nichiren sect. Additionally, it was noted that the believers of that sect were the readers of the work. From these points, it can be inferred that the publication of "Ruizoshu" was intended for the purpose of enlightening people.

By clarifying these points, it is believed that this study can contribute to the research on "early modern preaching materials."

研究分野：仏教文学

キーワード：仏教文学 唱導文学 書誌学 近世唱導 唱導文芸 唱導資料 寺院資料 日蓮宗

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 『類雑集』について

『類雑集』は、近世に刊行された、類書の性質を持つ唱導資料である。『国書総目録』では、「仏教書」と分類されており、十巻および目録一巻の計十一冊から成る。版本では、慶安四年(1651)に「石黒庄太夫」によって刊行された「慶安四年版」と、版元を「秋田屋平左衛門」に移して明暦三年(1657)に発行された「明暦三年版」がある。上記二種の内容、字句に異同はない。そのほか写本の存在も報告されているが、個人蔵であるため詳細は不明である。本研究では版本二種を研究対象とする。

### (2) 『類雑集』の研究状況

研究開始当初、『類雑集』に関する研究は少なかった。申請者が所属する大正大学総合佛教研究所近世唱導文芸研究会では、平成二十三年より一巻ずつ翻刻を行っていたが、本文の分析はなされていなかった。また、内容に言及する論文は、牧野和夫『中世の説話と学問』(和泉書院、平成三年一月)八木意知男『三社託宣』の研究と資料』第四章(京都女子大学研究叢刊四十九、平成二十三年二月)清水宥聖『言泉集』と『類雑集』(『国文学踏査』第二十号、大正大学国文学会、平成二十年三月)拙稿「慶安四年版『類雑集』巻六「時節門」出典考 第十七話「十二月ノ異名事」を中心に」(『国文学試論』第二十五号、大正大学国文学会、平成二十八年三月)があった。ただし、数としては少なく、未開拓に近い状況であった。

## 2. 研究の目的

### (1) 研究の目的

本研究の目的は、『類雑集』を手がかりとして、近世において唱導資料がどのように生成され、展開していったかを探ることである。『類雑集』生成の背景にどのような書物が使用されているか、本文に表れた作者の編纂意識はどのようなものであるか、書き入れや蔵書印からどのような受容の形態が読み取れるか、作者像・作者圏はどのようなものが想定されるか、それぞれ分析する。分析を進めることで、依拠した文献やそれを入手できる作者といった「生成」の面と、受容のあり方や読者層といった「展開」の面から検討する。

### (2) 研究の意義

「索引作成」「本文分析」「伝本調査」の作業をとおして、近世唱導作品の「生成」と「展開」の様相を検証していくことが、本研究の意義ある。

## 3. 研究の方法

### (1) 書名索引

大正大学図書館蔵「慶安四年版」を用いて十巻分の出典を整理し、『類雑集』が用いた資料群を把握する。Excelで管理することで、資料群を計量的に把握することが可能となる。

### (2) 本文分析・引用文献分析

(1)の引用文献を分析することで、使用頻度の高い文献から作者の思想を、流通の少ない文献から作者が利用した種本を特定することができる。その際、引用文献の諸本系統にも留意した。

### (3) 作者像・作者圏の想定

(2)で明らかにした資料群を手がかりに、それらが入手可能な作者像・作者圏の想定を行う。

### (4) 伝本調査

実地調査を行い、書き入れ、付箋、蔵書印などから受容の形態を検討する。

## 4. 研究成果

### (1) 書名索引

『類雑集』は類書の性質を有しており、多数の引用文献がある。その引用文献を書名索引として整理した。『類雑集』では出典名が略称で示され、「云」以下に引用される。たとえば、略称として「弘二本」「文三」「記五」「箋六」などがあり、それぞれ、『止観輔行傳弘決』『妙法蓮華經文句』『法華文句記』『法華玄義釋籤』とその巻数を指している。これらをExcelで整理することで、計量的かつ実証的に引用書の分析が可能となった。

### (2) 本文分析・引用文献分析

詳細は未発表の論文に譲るが、使用頻度の高い資料群は作者・編者が重視する經典類であり、ここから「作者・編者の思想」が看取された。

また、『類雑集』本文の分析を進めるなかで、引用書の諸本系統にも留意した。たとえば、『沙

石集』なら略本系、『金葉和歌集』なら再撰二度本系統の伝本を使用したことがわかったが、とくに成立圏の問題と関わるのは『宝物集』と『法華初心成佛抄』の伝本である。

### (3) 作者像・作者圏の想定

(2)本文分析・引用文献分析をもとに、作者像・作者圏の想定を行った。たとえば、『宝物集』の引用は日蓮宗総本山身延山久遠寺に収蔵されている抜書本に近い文であること、日蓮の『法華初心成佛抄』のうち、日朝が注を付した「朝師本」が利用されていること作者の図書ネットワークに深く関わる問題である。

また、『類雑集』の「注記」や「敬語」を分析した結果、日蓮宗関連の書物や人物への関心の高さが確認できた。たとえば、話末等に引用文献以外の文献への言及がある。この約一五〇の注記のうち、およそ三割を占めるのが日蓮宗関係者の手になる書である。また、引用文献には見られない『類雑集』独自の敬語表現がある。五十五％を占めるのが「釈尊」への敬語、ついで多いのが十四％を占める「僧」への敬語である。「僧」二十一例中、日蓮宗関係者は十三例と半数を超える。

これらのことから、『類雑集』が「日蓮宗総本山身延山久遠寺周辺で作られた可能性」を指摘した。

### (4) 伝本調査

これまで、大谷大学図書館蔵本、叡山文庫真如蔵本、京都大学図書館蔵本、大正大学図書館蔵本、龍谷大学図書館蔵本、東洋大学哲学堂文庫蔵本、石川県立歴史博物館蔵本などの調査を行ってきた。現存する『類雑集』の書き入れや付箋からは「日蓮宗の信徒やそれに近い読者」の存在が想定される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 北林茉莉代	4. 巻 43
2. 論文標題 「『類雑集』表現考（一） 敬語表現の用例から 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「大正大学大学院研究論集」	6. 最初と最後の頁 129-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 北林茉莉代	4. 巻 30
2. 論文標題 『類雑集』の和歌に見る編纂意識	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国文学踏査	6. 最初と最後の頁 66-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 北林茉莉代
2. 発表標題 「妙国寺蔵『宝物集』の位置づけ 藤原義孝往生譚の分析を中心に 」
3. 学会等名 仏教文学学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北林茉莉代
2. 発表標題 「『類雑集』における敬語表現 成立圏の問題と関連して 」
3. 学会等名 大正大学学内学術研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北林茉莉代
2. 発表標題 「『類雑集』における『蛇』」
3. 学会等名 伝承文学研究会第481回東京例会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関